

2012年度 サマーセミナー報告  
NPO法人「日本健康教育士養成機構」

テーマ「こころの健康・絆」

日時：平成24年8月11日（土）・12日（日）

場所：女子栄養大学駒込・生涯学習センター3階

参加者：様々な職種45人（多くは実践健康教育士、  
専門健康教育士の資格を有する）

I. 第1日目：ラウンドテーブルによる5つの実践報告

1) 実践報告の意義と目的：当NPOの健康教育士の実践事例の蓄積の必要性を感じ、各自の実践を学術性の高い論文にするため、報告後、多方面からのコメントを得て検討する。（大津一義）

2) 各実践発表 →発表内容や論文化への気づき・課題について討論→コメントを通して研究成果の交流・共有を図った。

(1) 「大学生の就職活動におけるストレス軽減プログラムの実施効果」北見由奈氏（実践健康教育士、桜美林大学健康心理福祉研究所）

(2) 「目標設定スキル向上のための教育実践効果—時間管理と絵画批評に着目して—」深澤清氏（実践健康教育士、明星大学人文学部教授）

(3) 「ヘルシースクール推進の要件と成果について」荒井裕見子（実践健康教育士、市原市立里見小学校養護教諭）

(4) 「ベトナムの中学1年生における喫煙に関する意識調査と禁煙授業実施の研究」三浦佐智子（実践健康教育士、町田市立南つくし野小学校養護教諭）

(5) 「ゆるーい思春期ネットワークの活動について」山口幸伸氏（ゆるーい思春期ネットワーク）・細井陽子氏（実践健康教育士、九州女子大学専任講師）

3) 総括：川口毅氏「健康教育士の責務の基本は自らの研究成果も含めて、科学技術の発展による新しい科学的知見を社会に広め人々の生活の向上に役立てることにある。先の見えない混沌

とした現況下では、健康教育士が実績を広く公表し、社会に役立つ大事な専門職種として認知されるように積極的に働きかけることが大切。

今日の議論が今後の皆さんの活動の発展に活かされることを希望する」。（文責：大津一義）

II. 第2日目：講演I「精神保健の現状と社会的  
かわり」三浦優彦氏（医師・実践健康教育士）→講演II「心の健康、支援のライフスキル」武田敏氏（千葉大学名誉教授NPO理事）  
→ロールプレイング・ワークショップ

1) 本セミナーの目的：「現代社会では様々な場や年齢層に心の危機が指摘されている。そこで、学校、職場、地域（家庭）等で問題を抱えている人に対して、気づき、声をかけ、話を聞いて必要な支援につなげ、見守ることのできる健康教育士を育成することにある」。（柳田美子氏）

2) 武田敏氏によるシナリオづくりとロールプレアの解説後、家庭・地域、職場、学校の人間関係の在りようの事例を参考にしてシナリオづくりと関係づくりの技術を取り入れた、ロールプレーによる気づきを交流するワークショップを行った。

ロールプレーはクライアント、聞き手、2人の観察者、記録係、および第三者からの観察を含めて、立場を変えて実施した。生きる力や元気を失い、快適に生きる意欲が低下しているクライアントの言葉や態度に傾聴し、共存親和、共感するための非指示的カウンセリングの支援スキルや役割・話し手・シナリオ場面や言葉を変えて多様な感じ方を交流し体験を通して学び合った。自他の価値観や感じ方、気づきの枠を広げて、時間、空間、相手との関係の中を繋ぐ「ことば（言霊）」とコミュニケーションの微妙な違いに気づいた方もいた。

健康教育専門家の主能力の6に「健康教育のリソースパーソンとして活動する」とある。日常の中の学びや気づきから、立ち寄りた、話を聞いてもらいたいと思えるようリソースパーソンとしての活躍を期待したい。（文責：鎌田尚子）